

第三国集団研修実施協議調査団報告書

—アルゼンティン・漁業訓練—

平成3年6月

国際協力事業団

701
89
TAS

研 二
J R
93-010

第三国集団研修実施協議調査団報告書

—アルゼンティン・漁業訓練—

JICA LIBRARY



1114252181

平成3年6月

国際協力事業団

国際協力事業団

26535

序 文

第三国研修とは、社会的、文化的、言語的に共通の基礎を持つ開発途上地域に研修実施国を選定し、そこに当該地域内の国々から研修員を受入れて、より現地事情に適合した技術、知識の移転を図るとともに、開発途上国間技術協力（TCDC）の推進に寄与し、将来的には実施国が独自に研修員受入れ事業を実施できるよう支援・協力することを目的としている。わが国は昭和49年度、タイのコラート養蚕研究協力センターで初めて第三国集団研修を実施して以来、開発途上国からの実施協力要請は増え続け、平成2年度においては16カ国で51コースの集団研修を実施した。

平成元年3月、わが国のプロジェクト方式技術協力による「アルゼンティン国立漁業学校プロジェクト」が終了したが、この成果を活用し、もってラテンアメリカ地域の海洋漁業の発展に協力するとの趣旨から、第三国集団研修の開催について周辺国に対してニーズ調査を実施したところ、強い要望が寄せられたため、平成元年7月、アルゼンティン国政府より、本件第三国研修の正式要請がなされた。当事業団は右要請を受け、平成3年5月27日から6月9日まで、実施協議調査団を同国に派遣した。

本報告書は、同調査団の協議内容及び成果を取りまとめたものである。

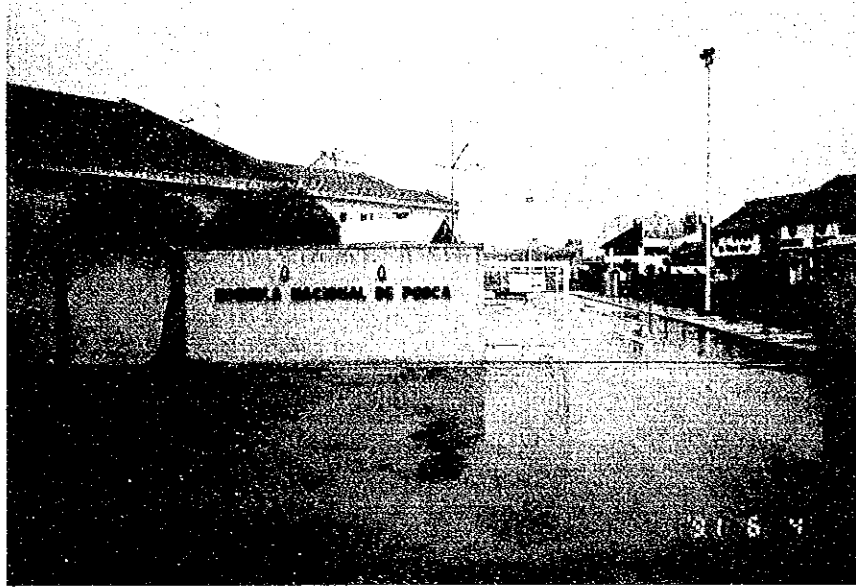
アルゼンティンにおける第三国研修の実施は今回か初めてである。

本報告書が関係者各位のさらに深いご理解のもとに、第三国研修のより良い今後の展開に資することができれば幸いである。

最後に本調査団の派遣に際し、ご協力を賜った外務省、農林水産省、在アルゼンティン大使館に対し、深甚な謝意を表する次第である。

平成3年6月

研 修 事 業 部 長



国立漁業学校校舎



ミニッツ署名

目 次

序 文
写 真
目 次

1. 実施協議団の派遣	1
1.1 派遣の経緯と目的	1
1.2 調査団の構成	1
1.3 調査日程	2
1.4 主要面談者	3
2. 討議議事録（R/D）作成の協議経緯	4
2.1 研修計画	4
2.2 実施手続	5
2.3 双方の分担	5
3. 第三国研修実施上の留意点	7
3.1 実施体制について	7
3.2 研修計画に係る留意点	10
3.3 その他特記事項	10
附属資料	
(1) 討議議事録（R/D）全文	13
(2) 調査団報道記事	14

1. 実施協議団の派遣

1.1 派遣の経緯と目的

(1) 派遣に至る経緯

- ① 1989年3月、アルゼンティン国立漁業学校に対する海洋漁業教育の改善と向上を目的とするプロジェクト方式技術協力：アルゼンティン国立漁業学校プロジェクト（National Fisheries School Project）事業が終了。
- ② これに先立つ1989年2月、同プロジェクト終了時評価調査において同漁業学校におけるセミナー形式の第三国集団研修の実施について「ア」国側より要望が出された。
- ③ 1989年5月、「ア」国側で独自に実施した周辺国に対するニーズ調査の結果報告が提出された。（対象国8か国中、5か国の参加要望があった。）
- ④ 1989年7月、「ア」国政府より国立漁業学校における第三国集団研修の実施に係る正式要請が出された。
- ⑤ その後、「ア」国JICA事務所と国立漁業学校の間で本第三国集団研修の実施に向け情報の収集と準備が進められ、これをもとに、1991年5月、本実施協議調査団の派遣に至った。

(2) 派遣の目的

第三国集団研修実施に関し、研修計画、実施手続、双方の分担事項等の実施細目について「ア」国外務省、海軍省、国立漁業学校と協議を行ない、討議議事録（R/D）を取り交わすことを目的とする。

1.2 調査団の構成

団長（総括）	：新保 智	JICA研修事業部研修第二課 課長
団員（協力企画）	：須藤 高良	農林水産省国際協力課 課長補佐
団員（漁業訓練）	：前田 弘	水産大学校漁業学科 教授
団員（企画運営）	：高城 元生	JICA研修事業部研修第二課

1.3 調査日程

月 日	曜	時 間	行 程
5. 27	月	12:00	成田発 (JL006)
		11:30	ニューヨーク着
		21:30	ニューヨーク発 (PA201)
5. 28	火	12:55	ブエノスアイレス着
		15:00	JICA事務所打合わせ
		17:00	大使館表敬
		20:00	JICA事務所長主催夕食会
5. 29	水	10:00	海軍教育総局表敬・協議
		11:00	外務省表敬
		15:00	JICA事務所打合わせ
5. 30	木	9:45	アエロパルケ空港発
		10:35	マルデルプラタ着
		14:30	国立漁業学校・視察
5. 31	金	10:00	国立漁業学校と協議
		14:30	”
6. 1	土	10:00	国立漁業学校と協議
		15:00	”
		21:00	国立漁業学校主催夕食会
6. 2	日		資料整理
6. 3	月	11:30	国立漁業学校と協議
		12:30	調査団主催昼食会
		18:00	マルデルプラタ発
		19:15	アエロパルケ空港着
6. 4	火	14:30	JICA事務所報告・打合わせ
6. 5	水	10:30	ラプラタ大学訪問 (獣医学部研究計画プロジェクト)
		17:00	大使館報告
6. 6	木	11:00	R/D署名 (於外務省)
		12:30	調査団主催昼食会
6. 7	金	18:00	ブエノスアイレス発 (SC941) サンパウロ経由
6. 9	日	13:20	成田着 (JL063)

1.4 主要面談者

アルゼンティン側

Mr. Alieto GUADAGNI	外務省国際経済局長
Mr. Julio Marcelo PEREZ	海軍省教育局長
Mr. Miguel Angel ALMADA	外務省国際協力課長
Mr. Rafael Alberto GUINAZU	国立漁業学校校長
Mr. Justo Alberto ORTIZ	国立漁業学校顧問（前校長）
Mr. Juan Manuel FIGUERO	外務省アジア・オセアニア課長
Ms. Consejera Ana GAY	外務省国際協力課日本担当官
Ms. Graciela SIMON	外務省国際協力課技術部門担当官

日本側

藤本芳男	在アルゼンティン日本大使館特命全権大使
伊藤昌輝	” 公使
望月毅	” 一等書記官
村松俊英	” 一等書記官
長谷川勝久	JICAアルゼンティン事務所 所長
梅谷重夫	” 総務課長
橋本栄治	” 業務第二課長
長町昭	” 業務二課
Mr. Victor KUMABE	” 業務二課

2. 討議議事録（R/D）作成の協議経緯

2.1 研修計画

(1) コース名称

(英文) International Seminar on Fisheries

(和文) 国際漁業セミナー

(2) 目的

ラテンアメリカ諸国からの参加者に対し、漁業分野に係る技術の向上と新しい知識、特に①航海電子機器②中層トロール漁法③船上漁獲物処理に係る技術・知識の習得の機会を与える。

(3) 到達目標

- ① 航海電子機器の利用法の習得
- ② 中層トロール漁法の技術の習得
- ③ 以上の知識・技術の指導法の習得

(4) 研修実施期間

初年度（1991年度）は、1991年7月24日から8月23日までとする。

(5) 協力期間

1991年度から1995年度までの5年間。

(6) カリキュラム

漁法分野の指導内容と、船上での漁獲物処理分野の指導内容との関連を強化したカリキュラムとする。

(7) 割当国

ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、メキシコ、ペルー、ウルグアイ、ヴェネズエラ。

(8) 定員

初年度（1991年度）は20名（うち実施国4名）とし次年度以降は17名（うち実施国2名）とする。

(9) 参加資格

- ① 各国政府の推薦を得た者
- ② 漁業学校又はそれに類する施設の講師であること、もしくは漁業分野に係る指導経験を3年以上有する者
- ③ 高校卒業もしくはそれと同等の学力のある者
- ④ 45才以下であること
- ⑤ 十分なスペイン語の能力を有すること
- ⑥ 参加国の国民であり、心身ともに健康である者

(10) 研修機関

国立漁業学校 (Escuela Nacional de Pesca, ESNP)

2.2 実施手続

(1) 受け入れ手続

- ① 割当国は、セミナー開始の60日前までに「ア」国政府に対し、外交チャネルを通じて、参加候補者の要請者（各人につき5部）提出する。
- ② 「ア」国政府は、セミナー開始の30日前までに、割当国に対し外交チャネルを通じて、参加候補者の受け入れの可否を連絡する。

(2) 経理手続

- ① 国立漁業学校はJICAから送金される経費の振込口座を「ア」国内に開設し、その口座名をJICAアルゼンティン事務所へ連絡する。
- ② 国立漁業学校は、セミナー開始の60日前までに、JICAにより支出される経費の見積りをJICAアルゼンティン事務所へ提出する。
- ③ JICAは上記見積りを査定し、査定金額を見積り受領後30日以内に、上記振込口座に入金する。
- ④ 国立漁業学校は、セミナー終了後30日以内に、経費精算書をJICAアルゼンティン事務所へ提出する。
- ⑤ JICAの支出した経費に残金が生じた場合は、JICAの指示に従い、それを戻入れしなければならない。また、航空賃、宿泊費、日当、保険料に充てられた経費については、他の費目に流用することはできない。
- ⑥ 国立漁業学校は、JICAの必要に応じて、上記精算書に伴う領収書等の証憑書類の提示ができればならない。

2.3 双方の分担

(1) 「ア」国政府

- ① 割当国に対し、外交チャネルを通じ、セミナーのジェネラル・インフォメーション (G. I) を送付する。
- ② 参加候補者の要請書を受付け、それを国立漁業学校へ送付する。
- ③ 割当国に対し、外交チャネルを通じ、参加候補者の受入可否を通知する。

(2) 国立漁業学校

- ① セミナーのカリキュラムを合意事項にのつとり作成する。
- ② G. Iを印刷する。

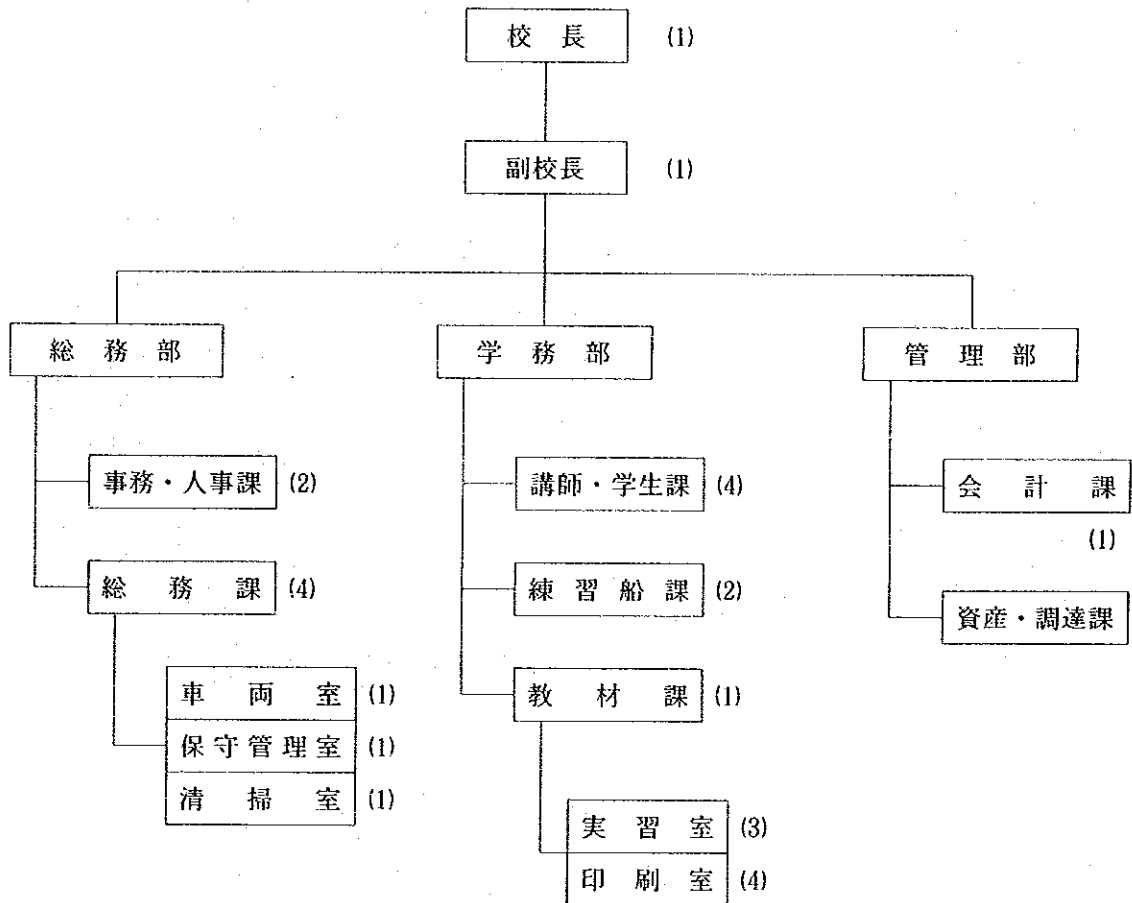
- ③ セミナー実施に十分な数の職員を、講師・指導員として配置する。
 - ④ 学校の訓練施設・機材をセミナーの利用の便に供する。
 - ⑤ セミナーの参加者を選考し、選考結果をJICAアルゼンティン事務所および「ア」国外務省に報告する。
 - ⑥ セミナー参加者の宿舎の手配をする。
 - ⑦ セミナー参加者の航空便の手配及び空港までの送迎の手配をする。
 - ⑧ セミナーの一部として視察旅行の手配をする。
 - ⑨ JICAが支出する経費以外の、セミナー実施にかかる費用について予算措置を講じる。
 - ⑩ セミナーの修了者にたいし、修了証書を発給する。
 - ⑪ セミナー終了後30日以内に、セミナーの報告書をJICAアルゼンティン事務所へ提出する。
 - ⑫ その他セミナー実施に係る種々の調整を行う。
- (3) 日本国政府
- ① セミナーで講義を行い、国立漁業学校に適宜助言指導を行う短期専門家を、通常の技術協力の手続きに従い派遣する。
 - ② 以下の経費をJICAにより負担する。
 - a) セミナー参加者の往復国際航空賃（エコノミークラス）、宿泊費、日当、保険料
 - b) セミナー実施に伴う、外部講師謝金、視察旅行経費、講師雑費、消耗品費、印刷・複写費

3. 第三国研修実施上の留意点

3.1 実施体制について

(1) 組織

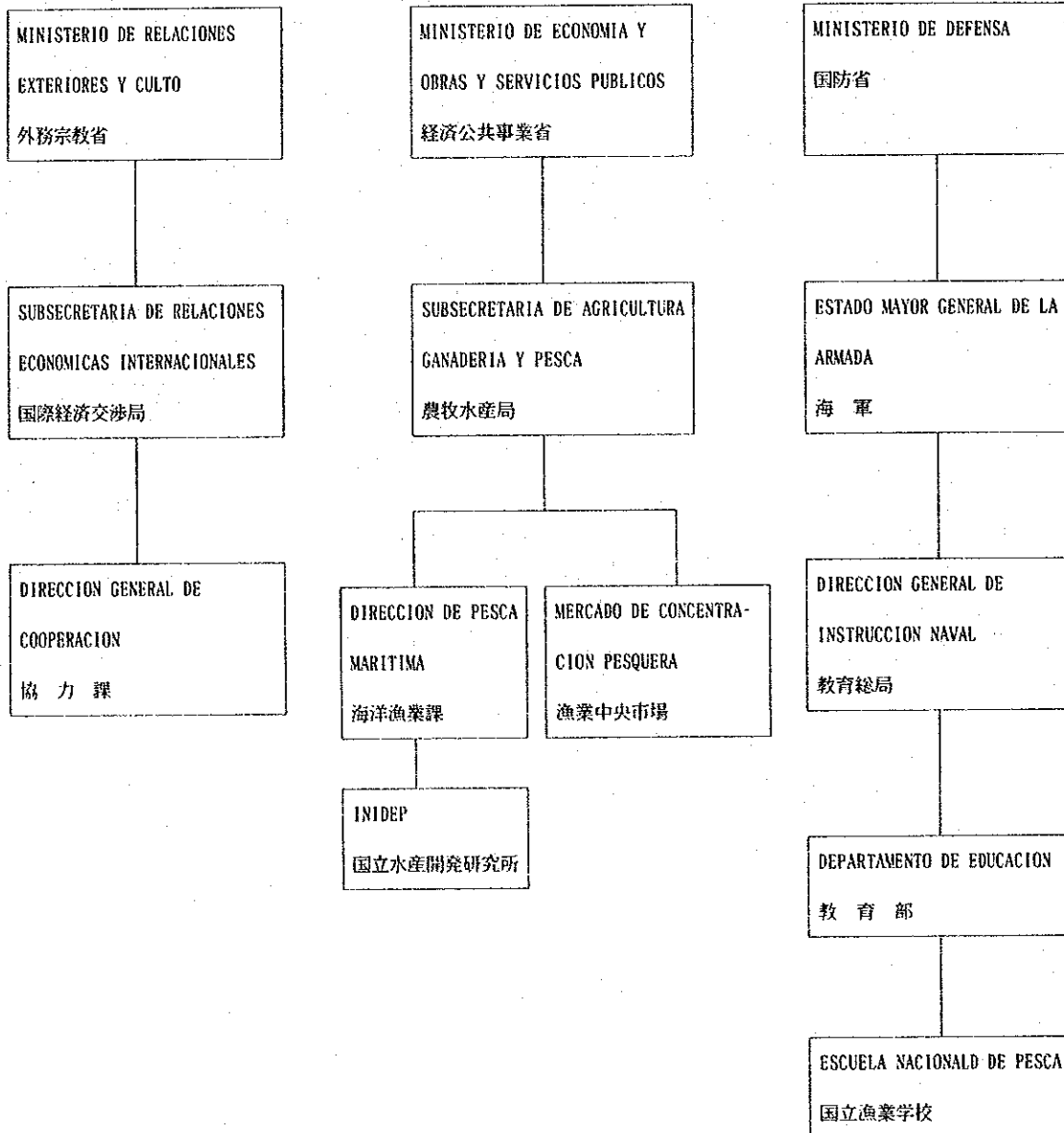
① 国立漁業学校：下図の通り。



註：（ ）内は職員数

② 支援組織一覧：下図の通り。

国立漁業学校第三国研修計画支援組織図一覧表



予 算

(1) 支 出

(US \$)

項 目	1990年	1991年
人 件 費		
－ 教 官	170,512	186,000
－ 文 官	32,842	45,000
小 計	203,354	231,000
営 業 経 費		
－ 燃 料	1,250	3,500
－ 公共サービス	10,408	17,500
－ 仲介者手当	9,230	18,500
－ そ の 他	4,115	17,000
小 計	25,003	56,500
維 持 費		
－ 建 物	3,500	5,000
－ 船 舶	2,100	6,000
－ 自 動 車	1,370	2,500
－ 設 備	2,800	4,000
小 計	9,770	17,500
支 出 合 計	238,127	305,000

(2) 収 入

項 目	1990年	1991年
海 軍 交 付 金	119,314	215,000
E S N P 徴 収 金	38,813	90,000
収 入 合 計	238,127	305,000

3.2 研修計画に係る留意点

「ア」側は当初、セミナーの内容を漁具・漁法と水産物加工の2つに分け、一部共通プログラムとするカリキュラムを提案してきた。

これに対し、日本側より、水産物加工は船上処理であるので、これは漁具・漁法と一体のものとして研修を行うべきものであることを説明し、「ア」側もこれを理解したことから、カリキュラムは附属R/D ANNEX Iのとおり作成した。

3.3 その他特記事項

国立漁業学校における教師の定着率は、「ア」国の経済、財政状況を反映して、必ずしも高くなく、プロジェクト方式の技術協力期間中にC/Pとして受入れた研修員のうち、教師であったものはすべて退職していた。「ア」側の努力により、本件第三国研修に必要な講師陣は確保できることが確認できたが、引き続き実施体制の強化に向けた努力が望まれる。

付 属 資 料

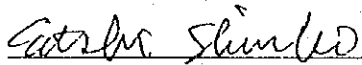
- (1) 協議議事録 (R/D) 全文
- (2) 調査団報道記事

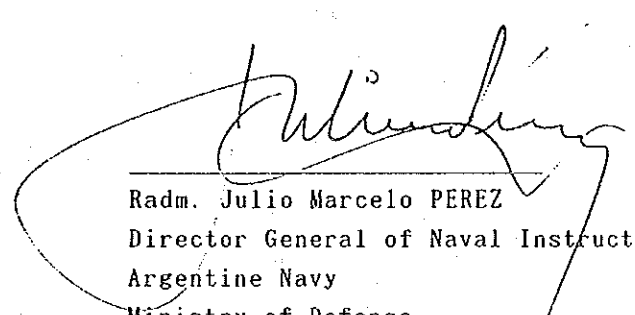
RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN
THE JAPANESE CONSULTATION TEAM ORGANIZED BY JICA
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE ARGENTINE REPUBLIC
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME


The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team"), organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Satoshi SHIMBO, had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Argentine Republic from May 29 to June 6, 1991 on the framework of a seminar in the field of fisheries under the Third Country Training Programme of JICA and on desirable measures to be taken by both Governments to ensure successful completion of the seminar.

Based on the above discussions, the Team and the authorities concerned of the Government of the Argentine Republic agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

Buenos Aires. June 6. 1991.


Mr. Satoshi SHIMBO
Head,
The Japanese Consultation
Team organized by the Japan
International Cooperation
Agency (JICA)


Radm. Julio Marcelo PEREZ
Director General of Naval Instruction
Argentine Navy
Ministry of Defense
The Argentine republic


Amb. Miguel Angel ALMADA
Cooperation Department General Director
Undersecretariat of International
Economic Negotiations
Ministry of Foreign Affairs and Worship
The Argentine Republic

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of the Argentine Republic will cooperate with each other in organizing a seminar in the field of fisheries at ESCUELA NACIONAL DE PESCA (hereinafter referred to as "the Seminar") under the Third Country Training Programme of JICA.

The Government of the Argentine Republic will conduct the Seminar with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

The Seminar will be held once a year from the Japanese fiscal year (JFY) 1991 to JFY 1995, subject to annual consultations between both Governments.

The Seminar will be arranged in accordance with the followings:

1. TITLE

The Seminar will be entitled "International Seminar on Fisheries".

2. PURPOSE

The purpose of the Seminar is to provide the participants from Latin American countries with an opportunity to improve upon their knowledge in the field of fisheries through understanding of methods and technics related to electronic equipments, midwater trawling supported by new technology, and on-board fish processing which ensures worldwide acceptance of fish products.

3. OBJECTIVES

The participants are expected to :

- 3-1 Understand general ideas of modern electronic equipment related to fishing activities.
- 3-2 Learn how to use the equipment in midwater trawling.
- 3-3 Learn teaching methods on the equipment mentioned above.

4. DURATION

The duration of the Seminar will be approximately five (5) weeks and the Seminar for JFY 1991 will be held from July 24 to August 23, 1991.

5. CURRICULUM

A tentative curriculum of the Seminar for JFY 1991 is attached as ANNEX I.

6. INVITED COUNTRIES

The Governments of the following countries will be invited to nominate their applicant(s) for the Seminar :

Brazil, Chile, Colombia, Ecuador, Mexico, Peru, Uruguay, Venezuela.

7. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed sixteen (16) in JFY 1991 and thirteen (13) thereafter, and the number of participants from Argentina shall not exceed four (4) in JFY 1991 and two (2) thereafter.

8. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Seminar are:

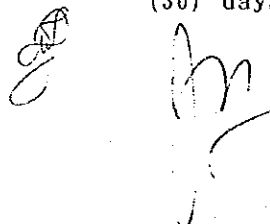
- 8-1 To be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure provided in 10-1 below.
- 8-2 To be a professor or instructor at a fishing school or similar institute, or to have more than three (3) years practical experience of teaching in the field of fisheries, preferably subjects related to the programs described in Annex III.
- 8-3 To be graduated from high school or to have an equivalent academic background.
- 8-4 To be under 45 years of age.
- 8-5 To have a sufficient command of Spanish.
- 8-6 To be citizens of the invited countries, and
- 8-7 To be in good health, both physically and mentally, for participating in the Seminar.

9. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Seminar will be held at ESCUELA NACIONAL DE PESCA (ESNP).

10. PROCEDURE OF APPLICATION

- 10-1 The Governments invited to nominate applicants for the Seminar shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of the Argentine Republic through diplomatic channels not later than sixty (60) days before the commencement of the Seminar.
- 10-2 The Government of the Argentine Republic will inform the nominating Governments through diplomatic channels whether or not the applicant(s) is/are accepted to the Seminar not later than thirty (30) days before the commencement of the Seminar.



11. MEASURES BY THE GOVERNMENT OF JAPAN
AND THE GOVERNMENT OF THE ARGENTINE REPUBLIC

In organizing and implementing the Seminar, the Government of Japan and the Government of the Argentine Republic will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country.

A schedule of Seminar-related activities for JFY 1991 is attached as ANNEX II.

11-1. The Government of the Argentine Republic

11-1-1. Ministry of Foreign Affairs

- (1) To forward General Information brochures (G.I.) on the Seminar to the invited Governments through diplomatic channels.
- (2) To receive application forms and forward them to ESNP, and
- (3) To inform the respective countries through diplomatic channels of selections.

11-1-2. ESNP

- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I.
- (2) To draft and print the G.I.,
- (3) To assign an adequate number of ESNP staff as lecturers/instructor for the Seminar.
- (4) To provide ESNP training facilities and equipment for the Seminar.
- (5) To select participants for the Seminar and inform the JICA Argentina office and Ministry of Foreign Affairs of the selections
- (6) To arrange accommodations for participants.
- (7) To arrange international air tickets for participants and to meet and see them off at the airport.
- (8) To arrange domestic study tour(s) as a part of the Seminar.
- (9) To take budgetary measures to cover the cost of conducting the Seminar, excluding expenses borne by JICA.
- (10) To issue certificates to the participants who have successfully completed the Seminar.
- (11) To submit a seminar report to the JICA Argentina office within thirty (30) days after the termination of the Seminar, and
- (12) To coordinate all matters related to the Seminar.

11-2. The Government of Japan

- (1) To dispatch short-term expert(s), in accordance with the normal procedures of its technical cooperation scheme, who will give advice to ESNP and deliver lectures for the Seminar, and
- (2) To bear the following expenses through JICA (A tentative estimate of expenses for JFY 1991 is attached as ANNEX III).
 - a) Invitation expenses for international economy-class air fares, accommodations, per diems and medical insurance premiums for participants.
 - b) Seminar expenses for honoraria for external lecturers, arrangement of study tours, teaching aids, expendable supplies, copies and reprints.

12. PROCEDURES FOR REMITTANCES AND EXPENDITURES

Remittance of funds for the expenses to be borne by JICA and expenditures thereof will be arranged in accordance with the following procedures:

- 12-1. ESNP will open a bank account in Argentina to receive the funds remitted by JICA and inform the JICA Argentina office of the name of the bank, the account code number, and the name of the account holder.
 - 12-2. ESNP will submit to the JICA Argentina office a bill of estimate for expenses to be borne by JICA not later than sixty (60) days before commencement of the Seminar.
 - 12-3. JICA will assess the bill of estimate and remit the assessed amount to the account referred to in 12-1 above within thirty (30) days after the receipt of the bill of estimate.
 - 12-4. ESNP will submit to the JICA Argentina office a statement of expenditures within thirty (30) days after termination of the Seminar.
 - 12-5. In case there is any unspent remainder of the amount remitted by JICA, ESNP will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The funds allocated for flight fares, accommodations, per diems and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purpose.
 - 12-6. Upon request by JICA, ESNP will make available for JICA's reference all receipts and other documentary evidence necessary to certify the expenditures stated in 12-4 above.
13. This Attachment and the following Annexes attached hereto are part of the Record of Discussions:

- ANNEX I : Tentative Curriculum of the Seminar (in Japanese FY 1991)
ANNEX II : Schedule of Seminar-related Activities (for Japanese FY 1991)
ANNEX III : Tentative Estimate of Expenses to be Borne by JICA

[Handwritten initials]
[Handwritten signature]

[Handwritten mark]

NATIONAL FISHERIES SCHOOL - THE ARGENTINE REPUBLIC
INTERNATIONAL SEMINAR ON FISHERIES
TENTATIVE PROGRAMME OF ACTIVITIES

DATE	09:00-11:00	14:30-17:00	17:30-20:00
	1st WEEK		
7/23	Arrival in Mar Del Plata and check in at a hotel		
7/24	Briefing session and opening ceremony		
7/25	Presentation of Country Reports		
7/26	- ditto -		
7/27	Tour	Free	Free
7/28	Free	Free	Free
	2nd WEEK		
7/29	Free	Electronic equipment	Audio-visual session
7/30	Free	Fish processing	Fishing techniques
7/31	Visit to the fish market and the port	Fishing techniques	Audio-visual session
8/1	Visit to a cold storage	Fish processing	Discussion on "Fishing techniques"
8/2	Visit to a net factory	Electronic equipment	Fishing techniques
8/3	Tour	Free	Free

DATE	09:00-11:00	14:30-17:00	17:30-20:00
8/4	Free	Free	Free
	3rd WEEK		
8/5	Visit to the National Fisheries Research Institute	Electronic equipment	Fishing techniques
8/6	Visit to a research boat	Fish processing	Discussion on "Maritime law"
8/7	Practices on board the training boat A.R.A. "LUISITO"		
8/8	Visit to a fish canning plant	Fishing techniques	Audio-visual session
8/9	Free	Fishing techniques	Discussion on "Marine biology"
8/10	Tour	Free	Free
8/11	Free	Free	Free
	4th WEEK		
8/12	(*)	Electronic equipment	Fishing techniques
8/13	Visit to a shipyard	Fishing techniques	Audio-visual session
8/14	(*)	Fish processing	Fishing techniques
8/15	(*)	Fishing techniques	Discussion on "Water pollution"
8/16	(*)	Fish processing	Audio-visual session

DATE	09:00-11:00	14:30-17:00	17:30-20:00
8/17	Tour	Free	Free
8/18	Free	Free	Free
5th WEEK			
8/19	(*)	Fishing techniques	Discussion on "Fishery economics"
8/20	(*)	Fish processing	Audio-visual session
8/21	(*)	Fishing techniques	Fishing techniques
8/22	(*)		
8/23	Final evaluation and closing ceremony		
8/24	Departure		

Note 1 : This program may be changed when there are justified reasons, and the participants will be informed accordingly well in advance

Note 2 : Lectures may include laboratory work and/or practices.

Note 3 : Major items of the Seminar will be as followings:

1. Electronic equipment
 - 1) Satellite navigator
 - 2) Omega navigator
 - 3) Reception of oceanographic data through satellite
2. Fishing techniques
 - 1) Trawling
 - 2) Trawl
 - 3) Behavior of trawl
 - 4) Net and otter board
 - 5) Design of trawl accessories

- 6) Discussion on the relationship between total resistance of net and towing power of boat
 - 7) Designing of trawl
 - 8) Net materials
 - 9) Pair trawling
 - 10) Squid jigging
 - 11) Electronic equipment on board
 - a) for navigation
 - b) for fishing
3. Fish processing
- 1) Fish handling and storing on board / on land
 - 2) Processing technics of traditional fish products
 - 3) Analysis of fish products safety in check-points in production line.
 - 4) Quality control of fish products
 - 5) " Surimi "

Note 4 : (※) A Supplementary session may be planned .

SCHEDULE OF THE SEMINAR-RELATED ACTIVITIES FOR THE JAPANESE FY 1991

MONTH	ARGENTINE SIDE	JAPANESE SIDE
June 1991	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Submission of Form A-1 3. Distribution of G.I. and Application Form 4. Opening of Bank Account 5. Submission of Bill of Estimate 6. Receipt of Application Form 7. Notification of the Selection of the Participants 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Recruitment of Expert 3. Submission of Form B-1 4. Remittance of Expenses
July August 1991	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of the Seminar 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Expert
September 1991	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Seminar Report 	

TENTATIVE ESTIMATE OF EXPENSES
TO BE BORNE BY JICA FOR THE JAPANESE FY 1991

(\$: US dollar)

ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT
I. INVITATION EXPENSES		
1. Air fares (round trip)	\$ 16,142	\$ 16,142
2. Transportation	\$ 180 x 16 pers. (Buenos Aires - Mar Del Plata)	\$ 2,880
	\$ 1,220 (Others)	\$ 1,220
3. Per diem	\$ 25 x 34 days x 16 pers.	\$ 13,600
4. Accomodations	\$ 55 x 1 days x 16 pers. (Buenos Aires)	\$ 880
	\$ 20 x 32 days x 16 pers. (Mar Del Plata)	\$ 10,240
5. Medical insurance	\$ 4.10 x 34 days x 16 pers.	\$ 2,230
SUB TOTAL 1		\$ 47,192
II. SEMINAR EXPENSES		
1. Honoraria for external lecturers	\$ 300 x 5 pers. \$ 700 x 1 pers.	\$ 1,500 \$ 700
2. Employment fee · Secretary · Coordinater	\$ 400 x 4 pers. \$ 800 x 1 pers.	\$ 1,600 \$ 800
3. Material procurement	\$ 1,500 (Consumption material)	\$ 1,500
4. Textbook	\$ 1,500 (Book purchase)	\$ 1,500
5. Meeting expenditure	\$ 1,800 (Opening & Closing ceremonies)	\$ 1,800
6. Others	\$ 1,700 (Printing and etc.)	\$ 1,700
SUB TOTAL 2		\$ 11,100
GRAND TOTAL		\$ 58,292

National Fishing School

Training Latin America

ONCE again the National Fishing School is the focus of attention. A couple of weeks ago an agreement was signed to conduct a seminar on fisheries as part of the training programme for third countries in Argentina. The Japanese government will extend technical training to Argentine teachers and grant scholarships to pupils from Latin America, also bringing Japanese lecturers for the seminar.

All this is part of the training programme for third countries of the Japan International Cooperation Agency (JICA).

The agreement was signed at the Foreign Ministry, overseen by International Economic Relations Undersecretary Alieto Guadagni and Japanese Ambassador Yoshio Fujimoto, by JICA Chairman Satoshi Shimbo, Navy Training Director Rear-Admiral Julio Pérez and Foreign Ministry Director of Coordination Miguel Almada.

The goal of the seminar is to give Latin Americans a chance to improve their fishing knowledge through methods and techniques with electronic instruments, trawling with latest technology, and fish processing on board to ensure worldwide acceptance of fishing products. This seminar will be held once a year during five consecutive years; it will extend over some five weeks, attended by 16 trainees, starting July 24, 1991 through August 23. Trainees from Brazil, Chile, Colombia, Ecuador, Mexico, Peru, Uruguay and Venezuela will be the first to attend.

Once the agreement was signed, Guadagni said that whenever the Japanese ambassador comes to the Foreign Ministry, he brings some good news or makes an announcement of some activity which is positive for Argentina.

Guadagni added that Japanese technical cooperation is among the most reliable;

Argentine experience has been positive, as shown by all the technical assistance given by Japan for years, not only in terms of statistics, but also "at the highest professional-technical level."

Then Guadagni said "we are very pleased with Japan's active cooperation in such a crucial item for Argentina as fishing, in which, as everybody knows, there is still much more to be done. I believe this is a highly positive step to obtain highly trained staff, not only at the domestic level but also in the rest of Latin America." He ended by remarking that "in the name of the Argentine government I would like to say thank you for this effective, positive cooperation honouring a tradition of friendship between Japan and Argentina."

The ceremony came to an end with a speech by Japanese Ambassador Yoshio Fujimoto, who underlined the international relevance of the National Fishing School at Mar del Plata, the result of very successful cooperation between Argentina and Japan. He mentioned that the satisfactory results attained by the School led Argentine authorities to suggest to Japan's government the possibility of extending training to other Latin American countries. Fujimoto said that his government took into account the effort and interest shown by the Argentine government in the process of Latin American integration. Japan believes this seminar will add much in that direction.

The ambassador recalled that Japan is a country with a significant fishing tradition. That is why they have researched and developed techniques and equipment to use at sea efficiently, at the same time taking care to preserve the wealth of the sea's resources.

"The Japanese government wishes to share such knowledge with those countries which, having an ex-

tended coastline, may find in fishing not only a way to meet their population's needs for food, but an alternative source of high revenue," Fujimoto added.

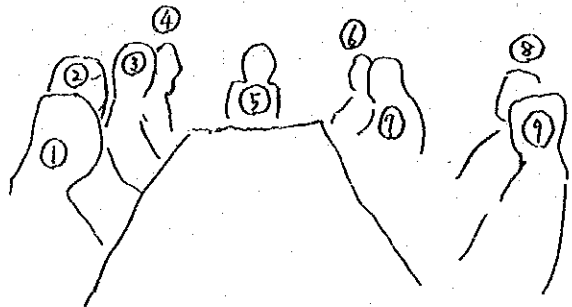
He acknowledged that Argentina has taken full advantage of Japan's fishing experience, through the National Fishing School. That is why Japan is very pleased that this school should want to share such knowledge with

Latin America.

Finally Fujimoto said he hopes those attending the seminar may take full advantage of it, in order to make that knowledge available in their own countries. He ended by saying: "My best wishes for the success of this first international experience at the National Fishing School, and for the good fortune of those attending it." CAP



• Signing of agreement.



- ① 外務省ALMADA国際協力課長
- ② 第三国研修実施協議調査団 新保団長
- ③ 海軍教育総局 PBREZ局長
- ④ 国立漁業学校 GUINAZU校長
- ⑤ 国立漁業学校 ORTIZ 顧問(前校長)
- ⑥ 外務省 ANA GAY参事官(日本担当)
- ⑦ 藤本大使
- ⑧ 外務省国際経済局GUADAGNI局長
- ⑨ 外務省 FLGUERERDアジア・オセアニア課長

JICA